

23 ボッチャ(拓桃ルール)

I 競技の特性

ペタンクと同じようなルールで行われる競技であり、脳性麻痺などの運動能力に障害がある競技者向けに考案された種目である。拓桃では、ボッチャのボールを用いてペタンク（拓桃ルール）と同様に実施することもあれば、中学校段階では公式ルールにも触れることがある。詳しいルールについては、IV-2の日本ボッチャ協会のURLを参照。

ボッチャ（拓桃ルール）では、勝敗の分かりやすさをルール変更の柱とした。



II 施設・用具

1.施設

室内が望ましい。

2.用具

(1)ボールセット(図1)

専用のボールを使用することが望ましい。各チーム6球ずつでゲームを行う。ジャックボールとは目標球のことである、

(2)メジャー(図2)

ジャックボールとの距離を計測するときに使用するもの。

※ボールセットやメジャーは宮城県障害者スポーツ協会や仙台市障害者スポーツ協会から借用できる。

(3)得点板



図1 ボールセット



図2 メジャー

III 競技の方法

1.人数（チームの編成等）

赤・青の2チームで行う。チームのボールが6球ずつのため、各チーム1～3名が望ましい。団体戦、個人戦どちらでも行える。

2.競技の進め方

- (1)各チームの代表がじゃんけんを行い、勝ったチームが先攻・後攻いずれかを選択する。
- (2)各チームはゲーム開始前に、投てきの順番を決める。
- (3)ゲームの開始を告げる。
- (4)先攻チームの一人目がジャックボールを投げる。続けて同じ人が自分のチームの色のボールを1球投げる。
- (5)後攻チームの一人目が自分のチームの色のボールを1球投げる。
- (6)審判がジャックボールからそれぞれのボールまでの距離を測り、遠い方のチームを宣告する。
- (7)宣告されたチームは、自分のチームの色のボールが相手チームの色のボールよりジャックボールに近づくまで投げ続ける。
- (8)全部のボールを投げ終わってジャックボールに一番近いボールの色のチームが勝ちとなる。

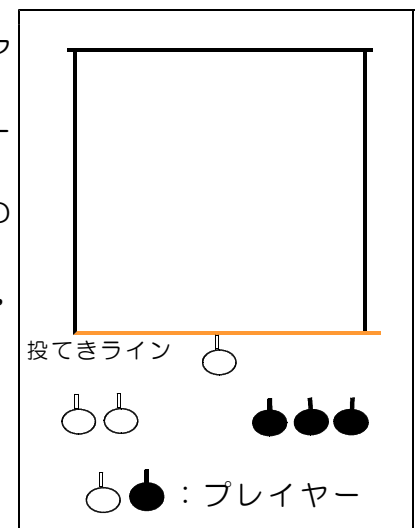
※ゲームを通して、ジャックボールや他のボールに当てて弾いてよい。

3.投てきの方法

投てきラインからボールを投げる。車椅子使用者は車椅子の前輪がラインから出ないようにする。また勾配具(ランプス)や自作補助具を使用する場合は、その用具の先端がラインを越えないようにセッティングする。

4.その他のルール

- (1)狭い室内で行う場合、投げたボールが壁に当たるとアウトとし、無効になる。
- (2)ジャックボールが壁に当たった時はコートセンターに戻る。
- (3)対戦するチームの人数が同じでない場合には、人数の多いチームに合わせる。
- (4)その他、プレイヤーの実態により配慮が必要な場合は、チーム間で協議をして決定する。



IV その他

1.工夫点とその意図

○得点の分かりやすさ

ボッチャの正式なルールでは「相手チームの1番近いボールよりもジャックボールに近い自分のボールの数が獲得した得点」になるが、より分かりやすくするために、ジャックボールに一番近い色のチームの勝ちとした。

2.ボッチャの正式ルール

日本ボッチャ協会（JBA）

<http://japan-boccia.net/>

3.補助具

ペタンク（拓桃ルール）と同様のものを用いることが可能である。